化も見えているので、その際になんごうこども園も統合の範疇に考慮してはどうですか。

A 保健福祉部長　将来そのように考えていきたいと思います。

Q まつおこども園と、なんごうこども園は建設時期が同じ頃である、今後合併特例債を見込んだ建設計画の中にまつおこども園の新築・改築を入れていただきたいがどうですか。

A 保健福祉部長　今後のこども園化整備事業計画なりをもっとはっきりさせないといけないと思います。その位置づけがないとなかなか説明が弱いので、しっかり詰めていきたいと思います。

現在の旧保健院

Q 病院棟を取り壊さない理由は何ですか。

A 総務部長　2千63箱の資料を保管しているからです。

Q ほかにも資料庫はあるのですか。

A 総務部長　文書の保管は、旧町時代のものについてはそれぞれの出張所の範囲の中で保管してもらっている。再度検討の課題だとは認識しています。

Q 職員の職場環境について、職員の人数が不足し過重になっていませんか。

A 保健福祉部長　来年も2名採用します。

Q こども園の指定管理者制度導入について伺います。

A 保健福祉部長　公共性を保った指定管理者ということで考えたいと思います。

Q 指定管理を進め、手の空いた先生方を不足する所に配置し、ゆとりのある保育、また幼稚園運営をしてはどうですか。

A 市長　指定管理も視野に入れて将来の運営について考えていきたいと思います。

個人質問

川原　春夫　議員

●障がい福祉について

Q 市役所に雇用されている障がい者の人数と市の対策をお聞きします。

A 総務部長　市役所としての法定雇用率は2.1%、雇用義務者数9人に対し、雇用している障がい者数は現在8人です。今回の採用試験で障がい者枠1名を設けて現在募集を図っています。障がい者が働いて生きがいが得られるような仕事の確保に努めていきたいです。

Q 神奈川県厚木市からガイドブックを取り寄せました。障がいのある方の自立した生活や社会参加を促進するために地域社会で支え合う環境づくりの推進を目指して作成されたものです。すばらしい取り組みと感じました。障がい者に対する市の取り組み、健常者の障がい者に対する接し方についてお聞きします。

A 市長　障がいを持った方に対しての理解は、行政として最大限やってまいりますけれども、結果を出していかなければいけない。障がいを持たれた方への理解が深まるような取り組みをしていく、その面から今、議員紹介のガイドブックを実際に読んで、それが障がい者の方への理解を市民の方に深めていただいて障がいを持たれた方の満足度が増していくというような、その後のことが大事ですので、参考にさせていただきます。

●睡眠教育の取り組みについて

Q 不登校や不登校の傾向にある児童生徒に対する支援は、非常に大事な大人の側の取り組みとして、学校現場と家庭の協力のもと進めていかなければならないと考えます。そこで、睡眠という視点から、この問題をどのようにとらえていくべきと考えますか。

A 教育長　不登校問題は合併以来、教育委員会の重要課題として位置づけて、その解消に取り組んできました。学校現場は危機感を持ってさまざまな対策、努力をして、現在は18年次の半数ほどに改善されています。不登校の要因もさまざまあるわけですが、睡眠不足から来るというものも要因の一つであることは間違いないものととらえています。正直に言わせていただきますと、不登校児の割合が占める睡眠不足が要因であると思われるものはさほど多くはない。しかしながら、睡眠不足から来る健康の問題、生活の乱れ等々の影響は非常に大きいものととらえていますので、この睡眠のあり方を含めて生活習慣の指導については特段の指導を行っています。

Q 例えば中学生は不登校の人数が減っているが、小学生は不登校の人数が増えているといった、そのような傾向性はありませんか。

A 教育長　合併時、圧倒的に中学生が多かったのですが、これが改善されました。一方で、小学生はその絶対数が非常に少なかったのですが、改善率は余り高くはない。気がかりなのは、新たな不登校児が小学校の低学年から見えていることです。これは小学校低学年ではなく、幼児のころから保護者も交えた家庭教育ということでやっていかなければならない問題であるととらえています。

Q 睡眠教育という視点から、非常にユニークな取り組みをしている自治体を紹介します。青森県三戸町では不登校や不登校の傾向にある児童生徒を支援するためスクールカウンセラーを派遣、また、三戸地方教育研究所を開設して、さま